

# プレースメントテスト

## 作文

Placement Examination

Composition

プレースメントテスト ID \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_  
name

国 籍 \_\_\_\_\_  
nationality

### 注意

辞書や教科書、インターネットなどは絶対に使わないでください。もし、そのようなものを使うと、あなたの日本語能力を正しく判定できず、あなた自身の不利益につながります。

We ask that you not use dictionaries, textbooks or the internet when writing. If you use such materials, this test(composition) cannot reflect your Japanese level correctly, which will lead to your disadvantage.

日本語日本文化教育センター  
Center for Japanese Language and Culture

以下の質問 1～3 すべてについて、指示にしたがって書きなさい。

Follow the directions written in Q1~Q3 as follows. All of them are obligatory.

質問 1 (Q1)

大学でどのようなことを学びたいと思いますか。 100～200 字程度で書きなさい。

## 質問2 (Q2)

次の文章を 200~400 字程度で要約しなさい。

言語を学ぶことは、他者とのコミュニケーション、そして教養の基本である。これは今も昔も変わらない。日本の場合であれば、ずっと長い間、先進的な隣国である中国の言葉や文章を学ぶことが、最も基本的な教育であった。江戸時代になると一部の人はオランダ語を学び、幕末から明治時代にはさらに英語やドイツ語・フランス語、ロシア語、イタリア語などが盛んに学ばれるようになった。

現代は、世界的にも、教養の基本は英語であり、外国語を学ぶ重要性は改めて言うまでもないだろう。外国人とコミュニケーションをとったり、高度な知的活動をするためには、長い時間と、絶え間ない努力をかけて、まず言語を習得する必要があるのである。

しかし私は、最近の技術の進歩をみると、このような言語の重要性、またその学習のあり方は、近い将来、大きく変わっていくのではないかと思う。コンピューターによる翻訳技術の進歩が、そのような変化を余儀なくするのではないだろうか。

たとえば Google translation では、日本語で文章を入力すると、あっという間に英語に翻訳してくれる。漢字の読み方もローマ字で教えてくれるし、翻訳された英語の文章を声に出して読んでくれる。わざわざキーボードで入力しなくても、文字をカメラで写して読み取ってくれるし、マイクに向かって話しかければその音声を聞き取って翻訳してくれる。

このような便利なサービスがあるおかげで、私たちはたとえ全くの未知の言語であっても、おおよその意味を理解することができる。私はタイ語やビルマ語やアラビア語やヘブライ語の文字は全く読めないが、それでも問題がなくなってきたのである。

もちろん、現在の翻訳サービスは完璧ではない。翻訳そのものの誤りもしばしばあるし、カメラやマイクを使った文字や音声の認識も、細かい誤りはしばしばである。しかし私は、それはやがて解決される問題だと楽観的に考えている。このようなテクノロジーは、今後さらに大きく発展することが予想されるからである。

たとえば 1995 年には windows95 が発売された。当時インターネットはすでに存在していたが、まだ生活を大きく便利にするようなものではなかった。それが、2001 年にはウィキペディアが設立され、2004 年にはフェイスブックがサービスを開始し、2005 年にはユーチューブが登場した。コンピューターとネットをめぐる状況は、10 年間できわめて大きく変わったのである。

その後の 10 年間の変化も大きい。2007 年に iPhone が発売され、同じ年に Google ストリートビューも使えるようになってきている。2015 年にはアマゾンのスマートスピーカー、エコー (アレクサ) が発売され、コンピューターやスマートフォンを使わなくてもネット上のさまざまなサービスを利用できるようになっている。

現在決して完璧とは言えない文字・音声認識や機械翻訳も、10 年後には実用上なんら問題のないレベルに達しているだろうというのが、私の予想である。そのような状況にあって、自分の力で言語を学ぶことの意味がどこにあるのか、考えてみる必要があるであろう。

この問題を議論する上で重要なことの一つは、私たちは言語を学ぶとき、そのことばを話す人々の文化をも知らなければならないということである。

一例を挙げよう。日本語で「うちのミケが病気になっちゃった」というとき、この「ミケ」は誰のことだろうか。これは、普通の辞書には決して書いていないと思うが、ネコの名前に決まっているのである。「ポチ」だったらイヌの名前である。理由はよく分からぬがそう決まっていて、ネコに「ポチ」と名付けることはとてもおかしいし、人間が「ミケ」と名付けられることはほとんどありえないのである。

これはごく単純な、笑い話のような例である。だがこの事実を知らないと、「うちのミケが病気になっちゃった」という言葉がどのような意味を含んでいるかは分からないし、たとえば「小泉総理大臣はブッシュ大統領のポチだ」という表現が、（翻訳することは不可能ではないけれど）どのような面白さを持った皮肉なのかということは、決して理解できないのである。

また別の例を挙げれば、日本人の会社員が「検討します」というとき、それは「ノー」とほとんど同じ意味であると言われる。その理解は多くの場合正しいのであるが、同時に一面的でもある。というのは、日本の会社員は、多くの場合、自分一人で何かを決めることができない。誰が決めるかという、上司や同僚と相談するのである。そこで全員の意見が一致して初めて、何かを決めることができるのである。「検討します」と答える会社員は、彼自身は「イエス」と言いたいのかもしれない。しかし会社の他の人たちの多くの考えが「ノー」であることも知っている。自分が彼らを説得できればいいが、そんな力も無い。それでも相手に直接「多分ノーだと思います」と答えるのも失礼にあたる。そういう色々な事情を考えたときの答えが、「検討します」なのである。

その答え方が「曖昧」だ、と批判することは簡単である。だが単純に「曖昧」だというだけでは、日本の文化を理解したことにはならない。ましてや、どうしたらそれを「イエス」に変えられるかは、永遠に分からないままであろう。

私たちは、外国語を使って話をするとき、ただその人と話をすればいいわけではないはずである。その人たちを理解したり、その人たちに何かをしてもらおうと思うからこそ、わざわざ外国語で話をする。そしてその目的を果たすためには、単に機械的に言葉を翻訳して済むこともあるかもしれないが、それだけでは足りないことも往々にして起こるはずである。

言語を学ぶこと、そしてそれを通じて文化を学ぶことの重要さは、これからもなくならない。いや、テクノロジーの進歩によって異なる地域の人々との接触が増えることになれば、その重要さはむしろますます高まっていくのではなかろうか。

### 質問3 (Q3)

課題文をふまえて、これからの国際社会がどのように変わっていくか、またどのような勉強や仕事が必要になるか、あなたの意見を、400字～600字程度で書きなさい。なるべく社会と勉強・仕事との関係を分かりやすく示し、また具体的な例を挙げるように注意すること。